

No 105
2024.2
<令和6年>

富良野市議会だより

コノギカイ



主な内容

- ・年頭のご挨拶 P2
- ・12月定例会で行われた主な質疑 P4~5
- ・一般質問 P6~10
- ・委員会報告 P10~P12
- ・議員派遣に関する報告 P12~P13
- ・可決された意見書 P14
- ・特集 令和4年度決算を見る P15
- ・議会の中からこんにちは・編集後記 P16

晴天の富良野スキー場

令和5年 第4回 富良野市議会定例会 議決結果表

令和5年12月5日～12月15日(11日間)

議案番号	事 件 名	議決月日	議決結果
(5年第3定) 認定第1号	令和4年度富良野市一般会計歳入歳出決算の認定について	12月 5日	原案認定
(5年第3定) 認定第2号	令和4年度富良野市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	12月 5日	原案認定
(5年第3定) 認定第3号	令和4年度富良野市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	12月 5日	原案認定
(5年第3定) 認定第4号	令和4年度富良野市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	12月 5日	原案認定
(5年第3定) 認定第5号	令和4年度富良野市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	12月 5日	原案認定
(5年第3定) 認定第6号	令和4年度富良野市水道事業会計決算の認定について	12月 5日	原案認定
(5年第3定) 認定第7号	令和4年度富良野市下水道事業会計決算の認定について	12月 5日	原案認定
(5年第3定) 認定第8号	令和4年度富良野市ワイン事業会計決算の認定について	12月 5日	原案認定
議案第1号	令和5年度富良野市一般会計補正予算(第9号)	12月15日	原案可決
議案第2号	令和5年度富良野市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	12月15日	原案可決
議案第3号	令和5年度富良野市介護保険特別会計補正予算(第2号)	12月15日	原案可決
議案第4号	令和5年度富良野市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	12月15日	原案可決
議案第5号	令和5年度富良野市簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)	12月15日	原案可決
議案第6号	令和5年度富良野市水道事業会計補正予算(第1号)	12月15日	原案可決
議案第7号	令和5年度富良野市下水道事業会計補正予算(第1号)	12月15日	原案可決
議案第8号	令和5年度富良野市ワイン事業会計補正予算(第2号)	12月15日	原案可決
議案第9号	富良野市農業センター設置条例の制定について	12月15日	原案可決
議案第10号	富良野市議会の議員報酬及び費用弁償等の支給条例の一部改正について	12月15日	原案可決
議案第11号	富良野市パートタイム会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部改正について	12月15日	原案可決
議案第12号	富良野市長、副市長及び教育長の給与等に関する条例の一部改正について	12月15日	原案可決
議案第13号	富良野市職員の給与に関する条例の一部改正について	12月15日	原案可決
議案第14号	富良野市フルタイム会計年度任用職員の給与に関する条例の一部改正について	12月15日	原案可決
議案第15号	富良野市職員の旅費に関する条例の一部改正について	12月15日	原案可決
議案第16号	富良野市手数料条例の一部改正について	12月15日	原案可決
議案第17号	富良野市生涯学習センター設置条例の一部改正について	12月15日	原案可決
議案第18号	富良野市国民健康保険税条例の一部改正について	12月15日	原案可決
議案第19号	富良野市空家等の適切な管理に関する条例の一部改正について	12月15日	原案可決
議案第20号	富良野市簡易水道事業に地方公営企業法の全部を適用することに伴う関係条例の整理に関する条例の一部改正について	12月15日	原案可決
議案第21号	富良野市ワイン事業の設置に関する条例の一部改正について	12月15日	原案可決
議案第22号	富良野市新庁舎建設検討委員会設置条例の廃止について	12月15日	原案可決
議案第23号	指定管理者の指定について(富良野演劇工場)	12月15日	原案可決
議案第24号	指定管理者の指定について(富良野市女性センター)	12月15日	原案可決
議案第25号	令和5年度富良野市一般会計補正予算(第10号)	12月15日	原案可決
議案第26号	議員の派遣について	12月15日	原案可決
意見案第1号	医療・介護・障害福祉分野における処遇改善等を求める意見書	12月15日	原案可決
その他会議に付した事件	議員の派遣に関する報告	12月 5日	報告済2件
	議員の派遣に関する報告	12月15日	報告済
	所管事項に関する委員会報告		
	・事務調査報告(総務文教)	12月 5日	報告済
	・事務調査報告(市民福祉)	12月 5日	報告済
	・事務調査報告(経済建設)	12月 5日	中間報告
	所管事項に関する都市事例調査報告		
	・都市事例調査調査報告(市民福祉)	12月 5日	調査済
	・都市事例調査調査報告(経済建設)	12月15日	決 定
	発議 議員の派遣について		
	監査委員報告		
	・例月出納検査結果報告(令和5年度8月分・9月分)	12月 5日	報告済2件
	閉会中の所管事務調査について(総務文教・市民福祉)	12月15日	許可2件
	閉会中の都市事例調査について(経済建設)	12月15日	許 可



謹 賀 新 年

年頭のご挨拶

年頭のご挨拶

富良野市議会議長
渋谷 正文



謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、令和6年を新たな気持ちで迎えられること、お慶び申し上げます。また、平素より、市議会に対しまして格別のご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。我が国の地方自治の本旨は、議会と執行機関はともに切磋琢磨して、社会福祉をはじめとした市民生活の向上に努めていくという、二元代表制にあります。したがって、市議会におきましても、市長としっかりと議論を重ね、多様化する住民のニーズに応えるよう、議会本来の使命である、執行機関の監視及び評価、政策提言・立案の機能を果たすとともに、執行機関と議会が一体となって、本市の発展と住民福祉の向上を図り、安心・安全な富良野市を構築していかねばなりません。振り返りますと、昨年は、市民に身近で開かれた議会を目指すため、日頃の議会活動状況を報告し、市民

の皆様と議員が意見交換を行う「議会報告会」を、地域に集まるかたちで14会場の開催を致しました。そして後日、議会報告会の内容について動画を作成し、配信を行ったところ。また、まちづくりについて市民と議員が自由に情報交換及び意見交換を行う「議会とまちづくりトーク」を二度開催し、鳥獣被害、介護に関する実態と対策について、相互理解を深め、課題の共有を行ってまいりました。本年も同様な取り組みを進める予定ですので、ぜひ多くの皆様と意見を交わすことができればと思います。さらには、議会で導入したタブレット端末等を活用し、議会資料のペーパーレス化を積極的に推進するとともに、新しい生活様式への対応かつ多様な人材が議会に参加しやすい「オンライン会議」の環境やルール整備を行ってきたところでもあります。市議会が期待される役割を果たし、市民の皆様が信頼され続けるために、議会はいかにあるべきか今後、対話を前提とした議員間討議を重ね、本市に関係する全ての方々が、幸せを感じる事が出来るよう、全力を挙げて諸課題の解決に努めてまいり所存であります。結びに、この一年が、富良野市にとってこれからの成長をさらに形作っていく年となり、市民の皆様にとって穏やかで平安なものとなります。すこすこを心よりお祈り申し上げます。

「議員一同、本年もよろしくお願い申し上げます。」



令和5年度一般会計補正予算
4273万6千円を増額
普通財産管理経費
171万6千円

事業内容
未利用の財産（建物）を解体前に建物にアスベストの有無などの調査するためのものです。

問 この時期の予算計上、発注は、年度内に完了可能か。発注に当たり内部での検討は。
答 年度内の調査は可能であり、来年度の解体を速やかに行うために予算計上した。調査結果を踏まえ解体費の予算化に努めたい。

子ども医療給付事業費
2377万2千円

事業内容
医療費無償化に要する経費について、令和5年10月までの実績から、令和5年11月から令和6年3月までの医療費給付に不足が見込まれるため、追加するものです。

問 予算追加の詳しい内容を。
答 医療費の予算は、前年の実績を基に予算計上している。令和5年度は対象を高校生に拡大し、拡大分も含め、実績を基に予算計上した。
しかし、4月からの予算執行状況は、1人当たり医療費、総額医

療費も計上した予算を上回って推移しているため、補正予算での追加に至った。これは、新型コロナウイルスやインフルエンザのまん延など、様々な疾病が要因として考えられるが、加えて、医療費無償化による医療機関への受診が容易になったことが、増加した要因と推測される。



小学校施設修繕事業費
208万2千円

事業内容
令和5年の猛暑を受け、エアコンが未設置の山部小学校、麓郷小学校、島沿小学校に簡易型エアコンを設置し、冷房することができるよう施設修繕するものです。

問 すでにエアコンが設置済みの学校では、運転時の騒音が大きく、授業に支障があると伺っているが影響は。
答 導入予定の機器は道立学校において導入の実績があり、影響はないと考えている。仮に音が大き



きいときは、常に最大で使わず、授業時は小さくする工夫を考えている。

問 設置対象校を事業内容の3校とした理由、令和6年の夏に間に合うか。
答 学校の規模や施設状況から小・中規模の学校を選定した。この規模は、国の補助金の対象となり、6年の夏に設置は間に合うものと考えている。

問 普通教室へ設置されるのか。
答 設置する学校の状況と学校側の要望を踏まえて設置を予定するが、一部の学校では、普通教室への設置も予定している。この事業では学校全体の冷房をするため設備を設置するものではなく、学校内にクールスポットを設ける方法により設備の設置を行いたいと考えている。

富良野市長、副市長及び給与等に関する条例の一部改正について

改正内容
令和5年の人事院勧告を参考に期末手当の支給割合を改めるほか出張における宿泊費の高騰などを受け、旅費を改めるものです。

また、令和6年1月分の給料に限り、令和5年中に発生した不適切な事務処理、不祥事等に対する執行者としての責任を明らかにするため、一部を減額するものと伺っている。多くの市民要望が上がっている中、改正せずに実現に向けて身を切るべきと考えるが見解は。
答 遡及することを含め、人事院勧告を参考としている。身を切るという点については、日頃より市民の付託に応えることを原則として職務を行っていることから、一連の不適切処理、不祥事に対し責任を明確にするため、一部減額することとしたものである。

富良野市職員の給与に関する条例の一部改正について

改正内容
令和5年の人事院勧告を参考に、4月に遡及して給料並びに期末手当、勤勉手当の支給割合を改めるものです。

問 若年層の給料が上がることは好ましいと思う。提案に当たり、内部協議等の有無、協議の内容は。
答 人事委員会を設置していない本市では、地方公務員法に規定される情勢適応の原則に基づき、人事院勧告を参考に改正の提案をした。内部協議は、人事院勧告を基に協議している。影響額は職員以外の特別職、会計年度任用職員を含めて5千万円と試算しているが、地方交付税により一部補てんされることになっている。

追加議案
令和5年度一般会計補正予算
2億5880万3千円を増額

医療・福祉施設等食料費高騰特別
支援金給付事業費
1067万3千円

事業内容
食料費の高騰により、利用者等に食料の提供を行っている医療・副施設等に対し、負担軽減のため、支援金を給付するものです。

なお、福祉施設には、介護施設、障がい福祉サービス、児童養護施設、幼稚園・保育園、地域食堂が含まれます。

問 認可外の保育所、企業内保育所は支援金の対象となるか。
答 認可外保育所については、給食提供が行われているかが、対象の判断基準となる。企業内保育所については、企業社員の福利厚生の一環であるため本支援の対象外である。

物価高騰重点支援給付事業費
2億2849万8千円

事業内容
物価高騰により家計への負担の大きい低所得世帯に対し、1世帯当たり7万円の重点支援交付金を給付するものです。

問 国では支援金の支給決定期限を令和6年6月と示しているが、本市における具体的な給付開始時期をお知らせ願いたい。
答 対象世帯からの申請書及び確認書類などが提出されることが前提となるが、令和6年1月中の給付開始に努めたい。

令和5年度の一般会計補正予算、総額 3億 153万 9千円を原案のとおり可決。予算は、子ども医療給付の追加をはじめ、学校のエアコン設置や給食費無償化を3か月延長する内容が盛り込まれています。

令和5年第4回定例会が、12月5日から15日までの11日間で開かれ、各議案の審議が行われました。

12月
定例会



ここが聞きたい！ 一般質問

令和5年第4回定例会において8人の議員が一般質問を行いました。
文責は、質問者にあるものとして、質問・答弁の要旨を掲載しております。
なお、議員顔写真は質問中ではなく、別途撮影した写真です。

質問者が収録されている動画のタイトル、動画上で質問が開始される時間は下記のとおりです。

富良野市議会 議会中継 (令和5年 12月 12日)		
宮田 均 議員	00分	44秒 ごろ
後藤 英知夫 議員	53分	40秒 ごろ
二宮 利和 議員	40分	57秒 ごろ
家人 茂 議員	2時間	28分 43秒 ごろ

富良野市議会 議会中継 (令和5年 12月 13日)		
佐藤 秀靖 議員	00分	23秒 ごろ
大西 三奈子 議員	38分	22秒 ごろ
大栗 民江 議員	1時間	29分 30秒 ごろ
石上 孝雄 議員	1時間	48分 23秒 ごろ

富良野市議会の YouTube チャンネルでは、議案質疑や一般質問など、本会議のすべてを視聴できます。
左のQRコードを読み込むとサイトに接続できます。



富良野駅バリアフリー化の早期実現を

宮田 均
(無党派)



富良野駅バリアフリー化に向けた市の対応は

問 観光客、高齢者、障がい者等に配慮するため、早期に駅のバリアフリー化が望まれるが、市の対応は。

答 J R北海道に対し、これまでの改善要望に加え、根室線の(富良野)新得間 廃止に伴い、J Rの施設のあり方検討に合わせ、バリアフリー化を申し入れていく。

宿泊税の早期導入と進捗状況について

問 観光施設や設備の充実のための財源として、本市において宿泊税の早期導入が望まれる。

北海道において同様の検討が進められているが、進捗状況と早期導入、使途として民間企業への支援や助成への見解は。

答 観光振興財源として有効である。一人一泊200円の税率で年間65万泊の試算で1億3千万円を見込み、北海道の(仮称)観光振興税」と調整を行い、内容を検討し、令和8年の導入を目指す。使途については、新規事業や既存事業の拡充、緊急性の高い事業



富良野駅のバリアフリー化を

などに充てるとされ、民間企業への支援については、(仮称)検討協議会が定める使途に合致し、かつ、行政支援が適当であることが条件と考える。

ワイン事業の持続的経営について

問 会計年度任用職員の人材確保上、待遇の差に問題はないのか。

答 会計年度任用職員は、事業の維持・発展に重要である。待遇差については市の規定により、経験年数を加味した待遇としている。

問 ぶどう果汁ビン詰再開時期は新たな設備の導入など検討をすすめる。

学校跡地の利活用促進を

後藤 英知夫
(富良野クラブ)



未利用財産の有効活用について
問 統廃合に伴って廃校となった学校跡地の現況について伺う。

答 山部第二小学校は、解体に向けて準備を進めている。樹海東小学校・麓郷中学校校舎については公売を行い応札があったが、応札者側の利用計画が定まらず契約に至っていない。

山部中学校は、野球場の活用に向けて、希望事業者と活用に向けて調整を行っている。

樹海中学校・布礼別小学校は、地域や市の活用予定がなく、今後売却などの協議を行っている。

問 山部中学校グラウンドの利用希望事業者であるウイスキー会社との進捗状況は。

答 ウイスキー会社は蒸留所を含めた貯蔵施設の建設を検討しているが、貯蔵資材等の高騰もあり、現況では貯蔵施設の建設を進めていく計画である。

RDFボイラーについて

問 運転状況はどの様になっているのか。また、課題はあるのか。

答 生涯学習センターについては燃焼温度を高く維持することが難しく、臭気や煤煙が高い。対策と



利活用が望まれる旧山部中学校

問 24時間自動運転はできているのか。

答 運転プログラムは完成し稼働しているが、試験運転で効率的な稼働のためには、11時間が適切であるとの結果に至った。

富良野市における介護事業のサービス供給量について

問 本市で介護事業が縮小、廃止されている現状についての認識は。

答 令和4年から複数の介護事業所で、人材不足や他の要因で廃止、転用に至ったことは、介護の質や量を担保する上で課題として深刻に受け止めている。現状のサービス供給量を維持するため、サービス提供体制づくりに努めていく。

問 高齢者が安心して住み続けられる地域づくりのための考えと方策について。

答 可能な限り在宅で医療、福祉サービスを利用できることと合わせて、施設、居住系サービスの整備、さらに地域包括ケアシステムの深化を進めていくことが重要となる。介護事業所の運営強化のため、人材確保への支援や、国への要望なども行っていく。

富良野市の農業を取り巻く環境の変化について

問 温暖化などによる環境変化による農業被害についての対策は

答 短期的には収入保険制度への加入促進を関係団体と連携し継続して努めていく。

二宮 利和
(ふらの未来の会)



長期的には、農業基盤整備を進めるとともに、気候変化に耐える作物の普及や栽培技術を、改良普及センター、JAふらの等との連携を進めていく。

問 農家戸数や農業人口の減少による経営規模拡大に対応した、コントラクター(農作業受託組織)育成や新しい経営手法への見解は

答 本市の戸当たりの耕作面積は年々増加傾向にあり、コントラクター育成、スマート農業などの導入を支援し、生産性、収益性が高い農業経営体の育成を目指していく。



安心できる介護サービスの提供を

MICE誘致による国際観光地創りの推進を

家入 茂
〔富良野クラブ〕

国際観光地づくりに向けた取り組みについて

問 観光振興や経済効果、ブランド力向上などをもたらすMICE（マイス）を誘致し、将来的にコンベンションの開催も視野に推進を図るべきと考えるが見解を伺う。

答 ワインツurisズムやサステナブルツurisズム等は、誘致上での有力なコンテンツと考える。

会場の規模や移動手段が課題であるため、報奨・研修旅行、会議、小規模なマイスを中心に、観光協会と連携して取り組んでいく。

市民交流スペース（Fプラザ）について

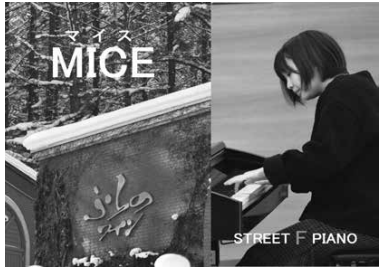
問 サンエーホールへと繋ぐ空間の有効活用を図る為の方策は。

答 年内もしくは年明けに、空き空間に自由に演奏できるストリートピアノの設置を試みたい。

東大演習林で行う森林学習について

問 教育旅行による森林学習を行う為、公開機会の拡大を行うべきと考えるが見解を伺う。

答 本年、5月に東京大学演習林との間で教育旅行に関する意見



誘致の有望なコンテンツであるワインツurisズム

選ばれるまち・住み続けたいまち けたいまちを目指して

佐藤 秀靖
〔ふらの未来の会〕

選ばれるまち・住み続けたいまちを目指した政策の諸課題について

問 シティプロモーション（CP）は、単なるまちのPRではなく地域再生、市民協働などの概念を含み、市政運営における市民との情報と認識の共有、市民の地域への愛着度、シビックプライドの醸成により、地域の価値を最大化する取り組みである。CPの戦略構築に向けた考えは。

答 CP戦略は庁内プロジェクトチーム並びに総合計画庁内推進委員会で議論を進めワークショップで意見を頂きながら検討を進めてきた。

この中でCPを進める上での方性をメイン産業の再興とシビックプライドの醸成を目指し、日常にある「当たり前」にスポットライトを当て、地域の価値の最大化、発信・体験を通じ「ゆるぎない誇り」に変っていくプロセスを農業と観光から創り出していくこととして戦略構築の検討を継続している。

問 地域課題を解決するための行政と民間の連携（公民連携）による地域イノベーション（社会変革）を誘発するための仕組みとして



昨年4月に設置されたシティプロモーション推進課



鉄道遺産の活用による地域振興を

大西 三奈子
〔ふらの未来の会〕

JRの鉄道事業廃止後のバス転換に伴う今後の対応について

問 布部の住民が乗り降りしやすい場所にバス停留所が設けられるのか、検討経過を伺う。

答 代替バスの運行ルートは国道38号の走行であるが、布部地域については、説明会で配慮を求め声があり、バス運行上の安全を確保しつつ出来る限り利用しやすい形となるよう、必要な条件整備について関係機関と協議する。

問 廃止後の駅舎等鉄道施設の活用について、観光に限らず移住促進にも配慮した地域振興を全庁的に検討すべきと考える。今後の利活用について自治会や関係団体等と協議する場を設ける考えは。

答 観光協会や関係部署などと保存や活用策について意見交換を行いながら方向性を検討していく。協議組織の設置は、必要に応じて設置を検討していく。

問 踏切跡の道路維持について、本市の道路工事に對する考えは。

答 軌道法に基づきJRが工事発注する場合と、工事費相当額を本市が受領して発注する場合とが想定される。道路種別や設計車両等の諸条件に応じて優先度を検討し、



布部駅～北の国 此処に始る～



車両運行に支障が生じないようにJRと連携して整備を進める。

問 おくやみコーナーの設置について身近な方を亡くされたご遺族に寄り添って、負担の少ない行政手続きが行えるよう「おくやみコーナー」を設置して市民サービスに努める考えは。

答 近年、死亡届の件数増加や遺族からの問い合わせも多く、コーナー設置あるいはコンシェルジュ配置などに向けて調査・検討中である。適切なサポート体制及び職員のスキル向上等にも努めていく。

多くの人が利用しやすい公園の整備を

大栗 民江
〔無党派〕

多くの人が利用しやすい公園の整備について

問 道内のある公園には、身体の不自由なお子さんや姿勢を維持することが難しいお子さんのために、背もたれやベルトで身体をサポートできるブランコ等、園内の14基のうち7基がインクルーシブ遊具になり、内外の幅広い世代が混ざり合い遊んでいる。本市におけるインクルーシブ遊具のパッケージタイプのブランコ設置について考えを伺う。

答 本市の公園遊具は、対象年齢を3歳から12歳としており、現在パッケージタイプのブランコは設置していないが、今後の遊具更新時に、公園利用者等からの意見も伺い、パッケージタイプのブランコに限り、ユニバーサルデザイン化に向け検討していく。

問 健康維持・増進を目的とした健康遊具の設置状況、周知と今後の取り組みに向けた考えは。

答 本市の健康遊具は、扇瀬公園に4基設置している。現在、富良野市健康都市推進プランの中で、公園健康遊具設置事業も検討しているので幅広い世代が気軽に健康づくりできる健康遊具について調



春を待つ市内の公園



査研究を進めたい。また、健康遊具の設置場所や利用方法をホームページ等で周知し、幅広い世代に利用されるよう取り組んでいく。

問 公園トイレのバリアフリー化に向けた考えを伺う。

答 現在の公園トイレは設置基準が定められる前に整備されたため、バリアフリー化されていないが、利用状況や老朽化の状態等も調査し、整備に取り組んでいく。

問 公園情報の発信の考えは。

答 広く利用されているため、SNS等も活用し、公園情報の発信に取り組んでいく。

農業を目指す若者を 富良野へ

石上 孝雄
〔富良野クラブ〕



農業担い手育成センターについて

問 センターにおける諸課題は、

答 新規就農者は8組16名であり1組2名が研修継続中、令和6年度は1組が研修予定である。研修生の受け入れにおける課題については、年齢、パートナーの有無、資金の準備、栽培作物などの市が提示する要件と相談者とのギャップが多く見られるところである。就農に向けた農地の確保と労働力確保に関する相談が多い。

農業を目指す方への情報発信

答 新規就農希望者の確保に向け東京や札幌でのイベントの出席、オンラインでの就農相談会、農亲身体験者滞在施設の利用者を対象に相談会などを行っている。

ホームページやインスタグラムによる情報発信を行い、農業担い手育成センターの取り組みを周知している。

へき地保育所について

問 0歳児からの保育の考え方は、



農業担い手育成センター

答 0歳児からの保育が必要な場合、保育体制が整備されている虹いろ保育所あるいは民間の認可保育所等の施設を利用している。

保育時間延長の考えは

答 へき地保育所の保育時間は、午前8時30分から午後3時30分となっている。延長保育は4月から10月まで東山、あおぞら保育所は午後5時まで、山部保育所は午後5時30分までの実施である。

調査第1号 防災行政について

〔最終報告〕 総務文教委員会

委員会では、災害が起きた時に市民が適切に避難できること、災害が少ない地域だがしっかり備えていくべきとの考えから、避難所での生活のことや、防災に関わる人材育成などに議論が集中しました。計画していた先進地視察については実現に至りませんでした。委員相互で議論を続けた結果、以下4点で意見の一致を見ました。

1. 防災ガイドマップの活用と周知強化について

防災ガイドマップを平時より目につくところに置くように促すことも必要である。富良野市公式ラインの「防災メニュー」など、デジタルの活用も併せて、防災情報にアクセスできる手段を分かりやすく伝え、意識の向上を図られた。

2. 避難所運営の配慮について

あらゆる人々に適切な配慮ができるよう、避難所での施設設備について検討を進めるべきである。トイレなどの衛生環境を中心に、避難所のあり方をより検討された。

3. 防災時におけるオビニオン



土砂災害警戒区域の状況調査

リーダーの養成について

災害時における地域のリーダーとなる人材を増やすため、北海道地域防災マスターなどの養成プログラムを進め、地域住民のなかに災害時に的確に対応できるスキルがある人材を増やすことに努められた。

4. 自主防災組織と共助の促進について

災害時においては自主防災組織が重要な役目を果たすというところは、防災ガイドマップでも触れられている。自主防災組織の育成や地域の共助活動を促進するために今後も、地域住民に対して自助と共助の重要性を伝えたい。

調査第2号 障がい者福祉について

〔最終報告〕 市民福祉委員会

委員会では主に就労支援について、地域生活支援について、障がい者や障がいに対する理解促進について議論が深まりました。その中で、雇用機会の創出と拡大を図る取組や、ニーズを把握し、相談支援事業者などと連携しながら適切なサービスの利用につなげること、多様化する様々な課題の解決に向けての具体的な取組は「安心して暮らせる共生のまち ふらの」の実現に向けて必要です。

また、義務教育段階から、多様な子どもたちが障がいの有無にかかわらず、ともに学ぶインクルーシブ教育を通じて障がいに対する理解を深めることは将来、福祉に携わる人材へと繋がる可能性もあり、障がいのある人が地域で生きやすい、暮らしやすい社会へと広がっていくものと考えられます。

以上を踏まえ、意見交換を行ったところ、次の3点について意見の一致をみました。

1. 点目、障害者雇用率の向上のためにも、就労支援に向けた職場体験実習等の取組や障がい者の雇用を行政が率先して行うことにより、これまで以上に就労環境を整

え、地域全体での障がい者の自立を目指して雇用の充実を図られた。

2. 点目、地域生活支援事業を充実させるために、障がい者支援事業所等の関係機関と連携し、真のニーズ（課題）に向き合い、地域の特性と利用者の状況にに応じ、さらなる地域生活支援の強化に向けて体制整備を図られた。

3. 点目、すべての人が安心して暮らせるまちづくりのために、障がい者や障がいに対する理解を深める機会が重要であり、障がいに対する啓発やインクルーシブ教育、地域住民との様々な交流の中で共生社会の理念の浸透を進められた。

以上、障がい者（児）等が、健常者と同等にあたり前に生活できるように社会こそが正常、いわゆるノーマルな社会であるという考え方のもと、障がい者（児）の自立と社会参加の促進に向けて、ノーマライゼーション社会が構築されることを期待して報告します。

都市事例調査 障がい者福祉について

市民福祉委員会

〔釧路町〕NPO法人が運営するあしはらの社では、福祉という枠組みだけで事業運営を考えるのではなく、例えば合宿所に就労継続支援事業を掛け合わせるなど、広い視野で事業を展開しており、それらは利用者にとって働き方の選択肢が増え、やりがいや働きがい、さらに工賃の向上につながり、障がい者の尊厳の保持につながっています。

多様な働く場所の提供が事業者や利用者にとつてのメリットが大きいため、事業所からの情報発信に限らず、行政も一丸となって情報提供に努めることが重要であると感じました。

働き手確保対策としても、作業の内容がホテルのベッドメイク作業など、本市の産業構造に合う内容だと感じました。

障がい者福祉の理解促進については、地域における活動の中で、「誰一人取り残さない」考えのもと、行政が民間団体と一緒に、取り組む必要性があると考えます。

〔帯広市〕障がい者雇用理解促進

事業において、企業とのコーディネートや事例集の作成に努め、障がい者を地域で雇用するための仕組みを整えていることは、障がい者雇用を進めるうえで参考になりました。

また、市役所での職場体験実習は、市職員の障がい者への理解促進と利用者の職業適性を確認する機会となり、本委員会でも関心を引くものであり大いに参考となる取組でありました。

さらに物品の優先調達、事業所運営資金の確保、利用者の工賃向上に繋げているほか、調達先の市内事業所を企業へPRする取組も大変参考となりました。

地域生活支援事業では、様々な相談に対応し、このうち聴覚障がい者に対しビデオ通話機能を利用した支援は良い事例で、手話通訳者が常駐している事も重要だと感じました。

学校跡地を活用した地域全体で支え合える環境整備の取組は、今後、本市の特別支援学校の誘致や少子高齢化、核家族によるつながりの希薄化に対応するためにも、非常に良い取組と感じました。

調査第4号 労働力の確保について

【中間報告】 経済建設委員会

少子・高齢化などの影響により、1995年をピークに生産年齢人口は減少に転じ、近年の労働市場は、女性や高齢者の活躍によって支えられてきましたが、新規学卒者の減少や団塊の世代が後期高齢者になり始め、全国的に人手不足が顕在化しています。さらに今後は、大幅な需要拡大が見込まれる看護・介護といった「社会保障関係分野」や、構造的に入職者が減少傾向にある「建設分野」2024年問題を抱える「物流分野」をはじめ、富良野市においては、基幹産業の「農業・観光に関する分野」における人手不足への対応は、喫緊の課題です。

雇用動向の指標とされている旭川公共職業安定所富良野出張所（ハローワーク富良野）管内の有効求人倍率は、新型コロナウイルス感染症の影響により、有効求人倍率が減少し、一時は0.75倍まで低下しました。

コロナとの共生が始まって以降は再び上昇をはじめ、令和5年3月には、有効求人倍率の記録を開始した平成25年4月以降で最も高い2.1倍に達しました。

議員の派遣に関する報告 議会報告会について

議会報告会は、令和元年まで全議員を3班に構成し、市内15会場で行っていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、令和2年度は中止、令和3年度は会場での開催を断念し議会からの報告を動画配信により行ってきました。

令和4年度は、会場と対面による開催を目指し、開催会場の地元関係者に対して実施の可否について御意見をいただいた結果、市内15会場での開催は困難と判断し、市内の2会場において昼、夜と時間帯別で合計4回の開催とし、会場開催における新たな取組として、パソコンからスライド画像を投影するなどの工夫に加え、動画配信を行なってきました。

今年度は新型コロナウイルス感染症が感染経路上の位置づけが5類に移行したことを受け市内全域での開催を目指し、結果、市内14会場で報告会を開催し、さらに令和5年12月15日から令和6年1月31日までの期間で動画配信してきました。

今年度の新たな取組みとして次年度以降における報告会の在り方

現状においては、公共職業安定所などによる外部労働市場を通して、広く人材を募集して、労働の「量」そのものを充足させていく方法や、企業内の内部労働市場において、労働者、すなわち、人への投資を通して、労働の「質」を高め、生産性を向上させていく方法などが想定されます。

そうした中、商工観光課では、市内事業者の人材確保の状況や働き手の就業観に関する実態把握や今後の施策検討の参考として、今年7月に関係団体と共同で実態調査を実施しました。

各業界と意見交換にも精力的に取り組み、10月には富良野市人材確保対策検討委員会を立ち上げ、部局横断的に労働力の確保に向けた施策検討に着手するなど、その成果は大いに期待されています。

本委員会では、こうした人材不足の状況下においても、本市経済の維持はもとより、さらなる成長と発展に向けて、今後も労働力の確保についての課題検証や先進地の事例調査などを行いつつ、継続して調査を進めていきます。

議会報告会

を検討するための資料として活用するため、報告会参加の皆さまにアンケートへご協力いただき年齢構成や参加回数、開催希望曜日や開催希望時間帯などのデータを集めました。

アンケートの回収は、議会報告会への参加者は全会場で延べ136名、うちアンケート回収は125件でした。内容で特筆すべき点は、報告会への参加回数について、初めてが53名、2回目が22名、3回目以上は49名と、初めてご参加いただいた方が多く、これまでの傾向と大きく異なる結果となりました。

議会報告会役員会ではアンケート内容や各会場での意見交換の内容の確認及び検証・精査を行ない、各会場で頂いたご意見などに議会としてどのように対応し、市政やまちづくりに対応できるか検討を進めてまいります。

また、次年度以降の議会報告会の開催方法等については、過去の議会報告会役員会からの報告を踏まえ、見直しを進める事を確認しています。

委員会報告 議員派遣報告

議員の派遣に関する報告 道北支部議長会議員研修会について

本研修会は、北海道市議会議長会道北支部議長会および上川町村議長会の共催により10月19日に旭川市公会堂で開催され、本市議会議員の参加は13名でした。

講演1では「住民から期待される議会になろう!」と題して、早稲田大学マニユフェスト研究所、事務局長の中村健氏より広聴を起点とした議会活動について講演がありました。

具体的には市民の声を聞いて議会で議論し「行政と情報共有しながら、議会と行政が一体となってまちづくりに取組んでいく必要性について述べられたほか、先進事例として愛知県犬山市議会の市民フリースピーチ制度などが紹介され、市民からお預かりした声を市政やまちづくりに反映させていく手法について理解を深めました。

講演2では「スクープに見る企業の危機管理」と題して、文藝春秋取締役・総局長新谷学氏より企業における危機管理の在り方について講演がありました。

とりわけ、企業における危機管理5か条として①最優先で守るものを見定める②ネガティブな情報

会派都市事例調査報告 ゼロウェイストの取組について、他

【徳島県上勝町】

上勝町では、ゼロウェイストと地域おこし協力隊の取組について調査を行いました。上勝町は、2003年に日本で初めて「ごみゼロ」を掲げた「ゼロウェイスト宣言」をし、国内外から多くの観光客が訪れ、今ではその取組みが町民の「誇り」になっています。2050年ゼロカーボンシティ宣言をしている本市にとって、市民一人一人が力を合わせ脱炭素社会に向かうことが大切であり、市民が行っているごみ分別やリサイクルの結果を実感できる機会や工夫が求められると考えます。

また、訪れる観光客にも環境問題について考える機会を提供していくことも、ゼロカーボンシティを目指す本市の役割の一つと考えます。

地域おこし協力隊の取組については、若い移住者が増えることにより、高齢化率の減少に寄与しています。この制度を広義の移住施策と捉えたときに、地域おこし協力隊に応募する前に一定の滞在期間を設け、地域をより深く知り、企画を考える時間を設けることも、

活動の成功や定着につながっていくものと考えます。

【愛媛県四国中央市】

四国中央市では、市町村合併に際し、新たな公共交通手段の検討を開始し、デマンドタクシーを導入するに至っています。高齢者の免許返納の促進策として、「お試しチケット」を渡す取組も行われていました。

現在本市で実証実験中のA Iオンデマンドタクシーについては、予約制で乗り合い、という共通点がありますが、「ドア・ツー・ドア」の取組みや、分散した地域内での公共交通を、乗り継ぎポイント」を設けることで、広範囲の移動も可能にしている点などは大いに参考になると思われまます。市街地以外の地域ではコミュニティカーの活用も進んでいますが、生活の質を守るために適した交通手段の確立が急務と考えます。

今後、住民が利用しやすい公共交通を維持するとともに、市民に利用してもらうことにより交通機関を住民の手で守り育てていく機運を醸成していくことも必要であると考えます。



医療・介護・障害福祉分野における処遇改善等を求める意見書

介護事業所などでは、人材の確保・定着が難しく、加えて、募集しても応募がなく、公的に定められた人員配置基準を何とか満たしても、必要としている職員数に満たない状態が続く運営に支障をきたす事態が深刻になっている。

最低賃金の引き上げやベースアップなどによって賃上げが進む中で、介護職員などへの対策は多く、賃金格差が拡大している。

また、私立保育園等の公定価格や児童養護施設の措置などは4月にさかのぼって増額される一方で、介護報酬や障害福祉サービス等報酬には反映されていない。

介護や障害福祉を支える職員は、専門職とされているが低賃金、人手不足による過酷な労働を強いられることが続けば、離職に歯止めがかからず、必要な福祉サービスの提供ができなくなる恐れがある。国において介護職員等の賃金水準を確保するための制度改革と同時に、職員の人権を尊重し生活を保障する取り組みを迅速に推進することを強く要望する意見書。

特集

令和4年度決算を見る

～決算審査特別委員会報告～

認定第1号「令和4年度富良野市一般会計歳入歳出決算の認定について」から、第8号「ワイン事業会計決算の認定について」までの8件について審査を付託され、閉会中の11月2日から3日間にわたり、各所管部ごとに審査を行いました。

この中で、総務、福祉、衛生、農林業、商工、建設、教育など各分野において、事業の取組み方、実績、効果などについて、委員より活発な質疑がなされ、理解が深められたところです。

審査の結果、認定第1号より認定第8号までの8件について、全会一致で「認定すべきもの」と決した次第であります。

【決算審査（一般会計）の概要と着眼点をお知らせします】

～決算審査とは～

前年度の予算執行状況やその効果の検証を行い、翌年度以降の健全な財政運営に資するための審査です。富良野市議会では議長と議会選出監査委員を除く14名の議員で構成される「決算審査特別委員会」を設置して、所管する部局ごとに質疑を行い、以下のポイントに着眼して審査をしています。

審査に対する着眼点（ポイント！）

監査委員による審査結果を尊重しながら、市長側から提出される資料を基に、次の予算審議に生かされるよう、以下のポイントに着眼して行政効果を検証しています。

1. 歳入について

- ☑ 歳入（収入）は予定通りに確保されたか？
- ☑ 確保できなかった場合は、原因を追究して、その確保に向けて十分な対策が行われたか？

2. 歳出について

- ☑ 事業の目的を超えた支出がなかったか？
- ☑ 予算額に比べ不用額が多い場合、その理由は何か？
- ☑ 不当な予算の流用や予備費の充用はなかったか？

3. 行政効果について

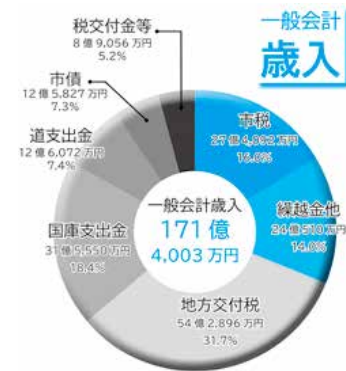
- ☑ 予算の執行により見込んだ行政効果を上げられたか？
- ☑ 工事は計画通り進んだか？
- ☑ 決算を踏まえ、行政執行の重点はどこにおかれるべきか？

4. 財政構造の変化について

- ☑ 決算を踏まえ、市債の将来の償還計画や財政力の推移はどうか？（市債とは市が財源を調達するために行う長期の借金のこと）
- ☑ 財源の弾力性はどうか？

5. 財産について

- ☑ 基金（市の貯金）や財産は適正な取得や処理がされたか？
- ☑ 未使用な財産を放置する等、利用上不経済なものはないか？
- ☑ 財産の総合的な運営の見地から、借上げが適切だったか？



事務調査申出及び都市事例調査の申出について

【事務調査申出】

●次の委員会では議長の許可を受け、閉会中、次のとおり事務調査を行います。

委員会名	調査番号	調査件名
総務文教委員会	調査第5号	学校図書館の現状と課題について
市民福祉委員会	調査第6号	ごみ処理と再資源化の取組について

【都市事例調査申出】

●経済建設委員会では議長の許可を受け、閉会中、次のとおり都市事例調査を行いました。

委員会名	調査件名	調査地	調査日
経済建設委員会	労働力の確保について	恵庭市、江別市	12月下旬

議会日誌 ～令和5年11月から令和6年1月の議会関係の開催状況をお知らせします～

11月

- 2日・令和4年度決算審査特別委員会
- 6日・令和4年度決算審査特別委員会
- 7日・令和4年度決算審査特別委員会
- 9日・経済建設委員会
- 10日・市民福祉委員会
- 13日・議会運営委員会
- 21日・総務文教委員会
- 24日・経済建設委員会
- 28日・第4回定例会告示

- 29日・総務文教委員会
- 30日・議会運営委員会

12月

- 5日・第4回定例会（第1日）
- 12日・第4回定例会（第2日）
- 13日・第4回定例会（第3日）
- 15日・第4回定例会（第4日）
- 20日・経済建設委員会都市事例調査
- 21日・富良野沿線市町村議会議長議員研修会
- 27日・議会広報特別委員会
- 30日・仕事納め

令和6年1月

- 9日・仕事始め
- 12日・経済建設委員会
- 16日・市民福祉委員会
- 18日・議会広報特別委員会
- 23日・総務文教委員会
- 25日・市民福祉委員会
- 26日・経済建設委員会
- 29日・議会運営委員会
- 31日・全国市議会議長会基地協議会第87回総会

次回定例会（令和6年2～3月）のご案内

次回定例会の開催予定です。開催は通常10時となっています。

日	月	火	水	木	金	土
2/25	26	27	28	29	3/1	2
			本会議	本会議	本会議	
3	4	5	6	7	8	9
			代表質問	一般質問	一般質問	
10	11	12	13	14	15	16
		予備日	予審特別委員会	予審特別委員会	予審特別委員会	
17	18	19	20	21	22	23
	本会議					
24	25	26	27	28	29	30

議会日程は変更になる場合があります。

お聞かせください
あなたの声

「フラノキカイ」に対する「ご意見」を伺います！

広報紙に対するご意見、ご感想をお寄せください。記事の内容に関するご意見のほか、文章や用語・用字、レイアウトなど紙面に含まれるものであればどんなことでも構いません。市民の皆さまの「フラノキカイ」に対する思いを、これからの広報紙づくりに役立てたいと考えていますので、ご意見をお待ちしています。

議会の 中から こんにちは

令和5年10月26日から11月27日まで、市内14か所にて議会報告会が開催しました。多くの方にご参加いただき、さらにアンケートにもご協力いただきました。その結果の一部をご紹介します。



アンケートにご協力いただき
ありがとうございます!!



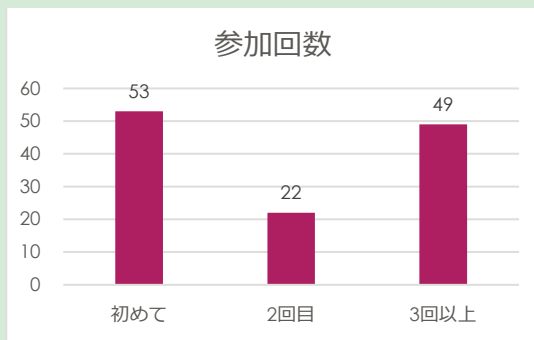
会場の様子



東山公民館



東部児童センター



参加回数は、初めての方が53名と最も多く、これまでの傾向と大きく異なる所でした。

議会報告会の各会場でいただいたご意見などは、今後議会としてどのように対応し、市政やまちづくりに反映していくことができるのか、検討を進めてまいります。

編集後記

- ▼令和6年元旦に発生した能登半島地震で被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。
- ▼卯年から辰年へと時が流れてきました。(辰)は、十二支の中では唯一の架空の生き物、竜を意味し、政治の大きな変化が起こることが多い年といわれています。
- ▼JR根室線(富良野〜新得間)が本年三月末で廃止になります。童謡(小線路は続くよどこまでも)が、日本で歌われて約六十年、子供の頃、よく口ずさみ、「野をこえ、山こえ、谷こえて、たのしいたびのゆめつないでる。」
- ▼この歌詞には、ロマンがあり、旅へのあこがれが光、仲間と旅に出た楽しい記憶が蘇ります。
- ▼廃線に伴うまちづくりの議論が活発になってきています。地域のニーズの把握や、実情に合う施策が重要であると考えます。
- ▼議会だよりが、更に身近に感じられる様に取り組んでまいります。

(委員 関野 常勝)

発行責任者	
議長	渋谷 正文
議会広報特別委員会	
委員長	大西三奈子
副委員長	松下寿美枝
委員	大栗 民江
〃	関野 常勝
〃	坂口 邦夫
〃	二宮 利和
〃	橋詰亜咲美



富良野市議会だよりは古紙/バルブ配合率60%再生紙を使用しています。

2024.2 (令和6年)

富良野市議会だより NO. 105

[発行] 富良野市議会 [編集] 富良野市議会広報特別委員会
〒076-8555 北海道富良野市弥生町1番1号 (議会事務局)

[TEL] 0167-39-2322

[URL] <https://www.city.furano.hokkaido.jp/shigikai/>

